

「イエスの復活：預言の成就」

- 24:1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。
- 24:2 見ると、石が墓からわきまのところがしてあった。
- 24:3 入って見ると、主イエスのからだはなかった。
- 24:4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くにきた。
- 24:5 恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。」
- 24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。
- 24:7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」
- 24:8 女たちはイエスのみことばを思い出した。
- 24:9 そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。
- 24:10 この女たちは、マグダラのマリヤとヨハannaとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちといっしょにいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。
- 24:11 ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。
- 24:12 [しかしペテロは、立ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、亜麻布だけがあった。それで、この出来事に驚いて家に帰った。]
- 24:13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。
- 24:14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。
- 24:15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。
- 24:16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。
- 24:17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。
- 24:18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」
- 24:19 イエスが、「どんな事ですか」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。」
- 24:20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。
- 24:21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、
- 24:22 また仲間の女たちが私たちに驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、
- 24:23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。
- 24:24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」
- 24:25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」
- 24:26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」
- 24:27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。
- 24:28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうなお様子であった。

24:29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中に入られた。

24:30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。

24:31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。

24:32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」

24:33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、

24:34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現された」と言っていた。

24:35 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。

24:36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真ん中に立たれた。

24:37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

24:38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。」

24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」

24:41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。

24:42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

24:43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

24:44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」

24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

24:48 あなたがたは、これらのことの証人です。

24:49 さあ、わたしは、わたしの父の約束して下さったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

24:50 それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。

24:51 そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、

24:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

はじめに

今日学ぶのは、ルカの福音書の最終章です。

先週お話したとおり、ルカは、イエスの人生と死と復活をその目で見た目撃者たちの話を聞いたうえで、イエスに関する福音書を書きました。

ルカはイエスに直接会っていないので、できるだけ多くの情報を調査しました。「テオピロ」という人物のために、順序立てて説明された報告書を書くためです。

24章は非常に長いですが、ルカはここで弟子たちに対するイエスの教えに焦点を置いています。弟子たちにイエスが語られたのは、旧約聖書のみことばに関してでした。

イエスは、旧約聖書の全体がイエスについて書かれたものだと弟子たち全員に語られました。

つまり、イエスの死と復活について本当に理解したいなら、私たちが旧約聖書と呼ぶユダヤ人の聖書はすべてイエスについて書かれたものであるということを知る必要がある、と言われたのです。

通常、クリスチャンはイエスの死と復活について学ぶために新約聖書を使います。

けれども当時は、新約聖書はありませんでした。

キリスト教の背景を知らない人や、聖書全体の知識がない人にとって、イエス・キリストの死と復活の目的を理解するのは難しいことです。

イエスの死と復活の重要性について理解するために、ユダヤ人の聖書から基本的な知識を得る必要があります。

そこで今日は、ユダヤ人の聖書から、イエスが初期の弟子たちに知ってほしいと願われた事柄に注目します。

これについては、今日の聖書個所で、イエスがその内容に言及される場面があるので、そこで学びましょう。

24章では、ふたつ明確にしなくてはならないことがあります。

まず、イエス・キリストが実際に死からよみがえり、肉体を持っておられたことです。

次に、イエスが、ユダヤ人の聖書全体からイエスの死と復活を理解する重要性について、弟子たちに二度にわたって教えられたことです。

1. イエス・キリストは実際に死からよみがえり、肉体を持っておられた。(1-12節、36-42節)

ルカは、イエスの復活を最初に知ったのは、女性たちだったと語ります。そのうち、3人だけ名前が挙げられています。マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤです。

他にも女性たちがいましたが、その名前は挙げられていません。

この時は、イエスのご遺体に香料を塗るなどの処理を施す最初のチャンスでした。

女性たちは、墓の中にイエスのご遺体があると確信していました。

けれども、墓に着くと、墓の入口をふさいでいた石が転がされていました。

女性たちが墓の中をのぞいてみると、そこにイエスのご遺体はありません。

イエスのご遺体がなくなったのを知った彼女らは、当然驚きました。

彼女らが、どうしたことかと思っていると、「まばゆいばかりの衣を着たふたりの人」とルカが記した御使いたちが話しかけてきました。

ルカ 24 : 6-7

24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。

24:7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」

8節には、彼女らが死と復活について語られた「イエスのみことばを思い出した」とあります。それで弟子たちのところに戻って、イエスが復活されたと報告しました。

ここで、女性たちはイエスが死からよみがえられたことを信じているのがわかります。

けれども、11節を読むと、弟子たちにはそれがたわごとのように思えたとあります。弟子たちは、女性たちの証言を信じませんでした。

けれども、弟子のひとりだったペテロは、墓まで走って行って、イエスをくるんでいた亜麻布だけが残されているのを見ました。

ペテロはこの出来事に驚いた、とルカは記しています。

ルカは、布切れが別のところに置かれていたと記していませんが、この出来事についてヨハネが記した個所も読んでおきましょう。

ヨハネ 20 : 3-8

20:3 そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。

20:4 ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。

20:5 そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中に入らなかった。

20:6 シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓に入り、亜麻布が置いてあって、

20:7 イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。

20:8 そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子も入って来た。そして、見て、信じた。

布切れは、イエスの復活についてペテロを励ますしるしだったと、多くのユダヤ人学者は考えています。

ユダヤ人が異邦人と食事をするとき、おもてなしが気に入らないことを友人に伝える伝達手段としてナプキンを特定のかたちにたたむ風習がありました。

つまり、この場所は気に入らないので、どこか別の場所に行こう、と伝える暗号だったので

す。イエスは、頭に巻かれた布切れを特定のかたちにたたみ、ペテロに何かを伝えようとされた可能性があります。

そのメッセージは、ユダヤ人の男性にしかわからないものでした。

イエスはペテロに、「この場所は気に入らないから、もっと良い場所に行った」と伝えておられたのでしょう。

忘れてはならないのは、ペテロがイエスを知らないで3度も言って、後悔したことです。そしてこのとき、彼は励ましをいただきました。

イエスが送ってくださった暗号によって、ペテロの考えが変わったのかもしれませんが。

24章前半で、女性たちがイエスの埋葬されている墓に行きました。彼女らは、イエスが復活されるとは思っていません。遺体に香料を塗るためにやってきたのです。

けれども、御使いが彼女たちに語りかけ、イエスのみことばを思い出させました。

女性たちは、イエスが語られたことばを思い出して、イエスの復活されたことを信じました。

そうです。彼女たちは、イエスがご自身の死と復活について語られたことを思い出させてもらわなくてはなりません。けれども、イエスのみことばを信じていたので、それを思い出して、復活されたと確信することができました。

今日ここにいる私たちにとっても、これは重要なポイントです。

「イエスのみことば」を信じるのが、私たちの最終的な未来を決定づけます。

ヨハネ 11 : 25-26

11:25 イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。

11:26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

イエスは、神の御子であり、私たちの罪のために死ぬという目的でこの世に来られ、3日後に死からよみがえられました。そして、今も生きておられます。このことを信じないなら、私たち自身の復活や、イエスと天国で永遠に過ごせる未来を確信することはできません。

ペテロの場合は少し違いました。空っぽの墓を覗いた彼には、イエスからの個人的なしるしが何か必要でした。

それで、ご自身が復活されたと信じられるようペテロを後押しするしるしを、イエスが与えてくださったようです。

もしかすると皆さんも、イエスの復活を信じられるように後押ししてくれる何かを必要としているのでしょうか。

もし、イエスとイエスの復活についての真実を求めているなら、信じられるように何かのかたちで背中を押してくださるかもしれません。

使徒パウロは使徒の働きの中で、イエスの御声を聞くという体験をしました。(使徒 9 : 3-5)

けれども、パウロには、福音のメッセージを異邦人の世界に携えていくという大きな務めが待っていました。そして、これには多大な犠牲が伴いました。

この個所でもうひとつのポイントは、イエス・キリストの復活が肉体の復活であったことをルカが明らかにしようとしていることです。

これは、「霊が見えた」という類のものとは違います。

ルカ 24 : 36-43

24:36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真ん中に立たれた。

24:37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

24:38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。

24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」

24:41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。

24:42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

24:43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

ここで考えなくてはならないのは、なぜイエスの肉体の復活がそれほど大切か、です。では、コリント第一 15 : 20-24 を読みましょう。

コリント第一 15 : 20-24

15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

15:21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。

15:22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。

15:23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。

イエスは初穂であり、後に信徒たちが収穫としてやってきます。

イエスの肉体の復活は、すべてのクリスチャン信徒の肉体が死からよみがえり、実際に体を持つことを証明してくれます。

今ある体と全く同じではないでしょう。けれども、どこか似ているはずで。

お互いに認識できるのです。けれども、その体は痛みや苦しみ、老いや死とは無関係です。

イエスの肉体の復活に、私たちの救いもかかっています。

ローマ 10 : 9-10

10:9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

もしイエスが肉体の形で死からよみがえらなかつたのなら、パウロが聖書で言ったとおり、私たちの語っていることは無意味です。

2. イエスは、聖書からイエスの死と復活について理解するように弟子たちに教えられた。(25-27 節、44-45 節)

まず理解しておかなくてはならないのは、イエスの死と復活を理解することについて、イエスが弟子たちに伝えられた内容です。

ルカ 24 : 25-27

24:25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。

24:26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」

24:27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

ルカ 24 : 44-45

24:44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」

24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

ユダヤ人には長い間、「律法の書」または「モーセの律法」と呼ばれる一冊の書だけが与えられていました。これは、私たちが読んでいる聖書の最初の5つの書です。

後に、詩篇、箴言、伝道者の書、雅歌などの書が加わりました。

さらに、預言書が加わりました。預言書はすべて、預言の含まれた書です。

これですべてが網羅されるわけではありませんが、律法と預言者と詩篇と言うと、私たちが旧約聖書と呼んでいる書全体を指していると、当時のユダヤ人の間では一般的に受け止められていました。

ここで私たちがはっきり理解しなければならないのは、イエスが弟子たちにおっしゃっていることです。私たちが旧約聖書と呼ぶ書全体が、イエスについて、そしてイエスの死と復活についてであると、イエスは言っておられます。

言い換えるなら、イエスの死と復活について知るべきことはすべて、これらの書に記されているということです。

ここで、旧約聖書をぜんぶ読んで、イエスの死と復活について語っている箇所をひとつひとつ指摘することはできませんが、イエスが旧約聖書からご自身の死と復活について説明された話を読んでみましょう。イエスを信じないユダヤ教指導者にはっきりと示された例ですので、私たちがこれを読んではっきりと理解できることを願います。

ヨナ書 1-3 章

1:1 アミタイの子ヨナに次のような【主】のことばがあった。

1:2 「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」

1:3 しかしヨナは、【主】の御顔を避けてタルシシュへのがれようとし、立って、ヨッパに下った。彼は、タルシシュ行きの船を見つけ、船賃を払ってそれに乗り、【主】の御顔を避けて、みなといっしょにタルシシュへ行こうとした。

1:4 さて、【主】は大風を海に吹きつけられた。それで海に激しい暴風が起り、船は難破しそうになった。

1:5 水夫たちは恐れ、彼らはそれぞれ、自分の神に向かって叫び、船を軽くしようと船の積荷を海に投げ捨てた。しかし、ヨナは船底に降りて行って横になり、ぐっすり寝込んでいた。

1:6 船長が近づいて来て彼に言った。「いったいどうしたことか。寝込んだりして。起きて、あなたの神にお願いしなさい。あるいは、神が私たちに心を留めてくださって、私たちは滅びないですむかもしれない。」

1:7 みなは互いに言った。「さあ、くじを引いて、だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったかを知ろう。」彼らがかくじを引くと、そのくじはヨナに当たった。

1:8 そこで彼らはヨナに言った。「だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか、告げてくれ。あなたの仕事は何か。あなたはどこから来たのか。あなたの国はどこか。いったいどこの民か。」

1:9 ヨナは彼らに言った。「私はヘブル人です。私は海と陸を造られた天の神、【主】を恐れています。」

1:10 それで人々は非常に恐れて、彼に言った。「何でそんなことをしたのか。」人々は、彼が【主】の御顔を避けてのがれようとしていることを知っていた。ヨナが先に、これを彼らに告げていたからである。

1:11 彼らはヨナに言った。「海が静まるために、私たちはあなたをどうしたらいいのか。」海がますます荒れてきたからである。

1:12 ヨナは彼らに言った。「私を捕らえて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。わかっています。この激しい暴風は、私のためにあなたがたを襲ったのです。」

1:13 その人たちは船を陸に戻そうとこいだがだめだった。海がますます、彼らに向かって荒れたからである。

1:14 そこで彼らは【主】に願って言った。「ああ、【主】よ。どうか、この男のいのちのために、私たちを滅ぼさないでください。罪のない者の血を私たちに報いないでください。

【主】よ。あなたはみこころにかなったことをなさるからです。」

1:15 こうして、彼らはヨナをかかえて海に投げ込んだ。すると、海は激しい怒りをやめて静かになった。

1:16 人々は非常に【主】を恐れ、【主】にいけにえをささげ、誓願を立てた。

1:17 【主】は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。

2:1 ヨナは魚の腹の中から、彼の神、【主】に祈って、

2:2 言った。「私が苦しみの中から【主】にお願いすると、主は答えてくださいました。私がおみの腹の中から叫ぶと、あなたは私の声を聞いてくださいました。

2:3 あなたは私を海の真ん中の深みに投げ込まれました。潮の流れが私を囲み、あなたの波と大波がみな、私の上を越えて行きました。

2:4 私は言った。『私はあなたの目の前から追われました。しかし、もう一度、私はあなたの聖なる宮を仰ぎ見たいのです』と。

2:5 水は、私ののどを絞めつけ、深淵は私を取り囲み、海草は私の頭からみつきました。

2:6 私は山々の根元まで下り、地のかんぬきが、いつまでも私の上にあります。しかし、私の神、【主】よ。あなたは私のいのちを穴から引き上げてくださいました。

2:7 私のたましいが私のうちに衰え果てたとき、私は【主】を思い出しました。私の祈りはあなたに、あなたの聖なる宮に届きました。

2:8 むなしい偶像に心を留める者は、自分への恵みを捨てます。

2:9 しかし、私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえをささげ、私の誓いを果たしましょう。救いは主のものです。」

2:10 【主】は、魚に命じ、ヨナを陸地に吐き出させた。

3:1 再びヨナに次のような【主】のことばがあった。

3:2 「立って、あの大きな町ニネベに行き、わたしがあなたに告げることばを伝えよ。」

3:3 ヨナは、【主】のことばのとおり、立ってニネベに行った。ニネベは、行き巡るのに三日かかるほどの非常に大きな町であった。

3:4 ヨナはその町に入って、まず一日目の道のりを歩き回って叫び、「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる」と言った。

3:5 そこで、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者から低い者まで荒布を着た。

3:6 このことがニネベの王の耳に入ると、彼は王座から立って、王服を脱ぎ、荒布をまとい、灰の中にすわった。

3:7 王と大臣たちの命令によって、次のような布告がニネベに出された。「人も、獣も、牛も、羊もみな、何も味わってはならない。草をはんだり、水を飲んだりしてはならない。

3:8 人も、家畜も、荒布を身にまとい、ひたすら神にお願いし、おのおの悪の道と、暴虐な行いから立ち返れ。

3:9 もしかすると、神が思い直してあわれみ、その燃える怒りをおさめ、私たちは滅びないですむかもしれない。」

3:10 神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らに下すと言っておられたわがわいを思い直し、そうされなかった。

マタイ 12 : 38-41

12:38 そのとき、律法学者、パリサイ人たちのうちのある者がイエスに答えて言った。「先生。私たちは、あなたからしるしを見せていただきたいのです。」

12:39 しかし、イエスは答えて言われた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。」

12:40 ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。

12:41 ニネベの人々が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。

イエスは、ヨナ書がご自身について書かれた書であって、ヨナについてではないと明言されます。

ヨナは、イエスの死と復活、そしてそれ故に得られる神のあわれみを指し示すために用いられた神の器にすぎません。

ニネベの人々は、罪から救われました。ヨナがニネベの町に神のメッセージを届けたからです。

これは、イエスと、イエスの死と復活について教える旧約聖書の話の一例です。

この話は、エマオへの道すがら、イエスがふたりの弟子たちに説明された事柄のひとつだったに違いないでしょう。

英語の大きな **ESV** 版スタディバイブルを持っている人は、旧約聖書の全章にイエスを見つけようとした人がいたとわかるでしょう。これはとても興味深い内容です。

イエスが弟子たちの心を開き、みことばを悟れるようにしてくださるまで、彼らは混乱していたと、45 節でルカは言っています。

ルカ 24 : 45

24:45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

また 30-31 節でも、イエスがパンを取って裂き、弟子たちに与えた後で、弟子たちの目が開かれて、それがイエスだとわかったとあります。

ルカ 24 : 30-31

24:30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。

24:31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。

まとめと適用

著者の意図に従い、ルカがイエスに関する報告を記した目的に注目しましょう。

ルカがこれを記した目的は、人々がイエスについて、そしてイエスの人生と死と復活について 100%の確信を得ることです。

ですから今、イエスがどのようなお方で、なぜこの世に来られたのかについて、私も皆さんに確信を得ていただきたいと願います。イエスは、私たち全員の罪のために死に、3 日後に死からよみがえられました。

イエスが私たちの心の目を開いてくださり、私たちが自らの罪を認めて、イエスに罪の赦しを求める必要性に気づけるようにと祈ります。

私たちは、イエスのことばと聖書全体の真理に基づいた確信を得る必要があります。

イエスを求めるすべての人に、イエスがご自身を現してくださるよう祈りましょう。

では、3 分ほど、静かに祈りましょう。